

五月菜 (くきたち)

アブラナ科：トルコ高原、バルカン高原

栽培暦

月	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主																											
な																											
作	<p>追収 肥始め</p> <p>播種</p> <p>間引き肥</p>																										
業																											

■栽培のポイント

1. 播種適期は遅れないようにする。
2. 間引きは葉と葉が重ならない程度に早めに行う。
3. 播種床、定植ほ場で排水不良なところでは高うねとする。

■品種・種子量 ちりめん五月菜。a 当り 70~100 mℓ。

■播種期 露地では9月上旬から中旬に直播きとする。ハウスを利用する場合は、本葉4~5枚頃まで育苗し11月中旬に植え付ける。

■播種準備

施肥 堆肥と石灰を全面に散布し耕起する。基肥を施用し再度耕起してうね立てする。

播種床 うね幅120cmとし、排水不良なところでは高うねとする。

播種 越冬後のとうを収穫する場合には、3条のすじ播きとする。秋に間引き収穫をする場合は、くわ幅播きでも良い。

覆土 種子が見えなくなるように軽く覆土し、鎮圧する。

■播種後の管理

間引き 密生しているところを1~2回間引きし、茎葉の充実を図り1株を大きくするよう心がける。最終的に株間を12~15cmとする。

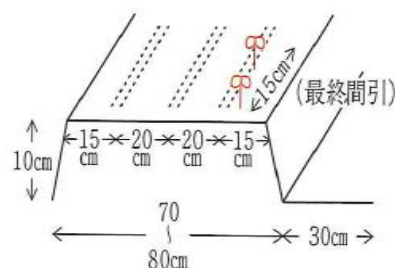
追肥 10月中旬頃に1回と、融雪後に早めに行う。1回の追肥量はa当り窒素量で2kgを株間、条間に茎葉がかからないように注意する。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	15	—	窒素 1.9kg
ホーソ入りそさい2号	10	—	リン酸 1.1
燐硝安加里 S604	—	4	加里 1.6



土寄せ 追肥後、軽く中耕し株元に土寄せする。

ハウス栽培の場合 無加温の場合は、11月中旬よりカーテンを被覆し、さらに12月以降はトンネルを併用して保温に努める。この場合日中の気温が25℃以上にならないように換気を図る。

■収穫・収量

収穫 融雪後、気温が上がってくるに従い、茎葉が伸長しとうが立ってくるので、順次早目に収穫する。収穫の際に下位節を残しておくこと、側枝からも収穫できる。収穫が遅れると茎が硬くなるだけでなく側枝の生育が抑制される。

収量 収量はa 当り 100～150 kgである。

やさしい雑学

雪むろの作り方

雪むろは、中の温度がほぼ0℃となり、氷温貯蔵庫として利用できます。野菜の貯蔵やうどなどの根株の貯蔵に適します。

雪むろの作り方のポイントは、①排水の良い場所に設置する、②雪はザラメ状になった重い物を用いる、③貯蔵物を中央に置きロータリー除雪機で雪を積み上げるか、手で積んだ場合は十分踏み固める、④雪の上に粉がらを20 cm厚に敷く、⑤建設工事用シートで雨よけ状に覆います。

上手にできた雪むろでは、雪の高さ150 cmで7月下旬、250 cmで10月下旬まで利用できます。